

【評価実施概要】

事業所番号	0170502777		
法人名	医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下		
所在地	〒003-0869 北海道札幌市白石区川下574番地61 (電話) 011-874-7601		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 7月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27人
職員数	24人 常勤23人, 非常勤 1人, 常勤換算23.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋RC 造り
	3階建ての 1 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		
その他の経費(月額)	食費36,000円、水道光熱費25,000円、暖房費3,000円(11月~3月)		
敷金	有(35,000円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食 400円
	夕食	550円	おやつ 0円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(10月24日現在)

利用者人数	25名	男性 9名	女性 16名
要介護1	9名	要介護2	9名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 79.1歳	最低 66歳	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌恵愛会、桜台病院、三上整形外科病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市白石区の郊外に位置しており、広大な敷地に母体の精神科病院・老人保健施設・デイケアなどに併設されている事業所である。特にデイケアとは密に連携を取り、利用者へのサービスに繋げている。事業所は3階建ての3ユニットで、居住スペースは、アットホームな雰囲気である。各ユニットごとに8名づつの手厚い職員配置をしており、有給取得や研修派遣など労働環境も整備されていて、職員の定着率も高い。開設当初より在籍のホーム長を中心に認知症ケアの研鑽を積み重ねている。日中は併設されたデイケアに通う利用者が多いので、事業所で過ごす利用者への個々のニーズに応える体制が充実している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 事業所の理念、地域との付き合い、運営推進会議の活用、介護計画の見直しなどの改善課題については、意欲的に改善に取り組んでいる。市町村との連携や同業者との交流などの対外的課題についても改善の必要性を認識しているので、さらに質を高める取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長より、自己評価の意義が職員に説明され、共通的な項目はホーム長がリーダーと合議の上で、個別的な項目はユニットごとに話しあい評価している。自己評価には「もっとこういうケアを提供したい」という記載が多く、振り返りと質の向上に気付く機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は昨年度より開催され、3ヶ月に1度の開催が定着しつつ有る。議題は、事業所の運営状況のほか町内会長から町内の行事などの情報提供や地域包括支援センターの住民対象のミニ講座などの企画なども出され、少しずつ地域に根ざした内容となっている。更に運営推進会議のメンバーに地域の様々な組織からの参加者を受け入れ、事業所がより地域密着できるような取り組みに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情対応窓口を明示しており、意見箱も設置されているが、活用されておらず、苦情対応簿も用意されているが、苦情が無いということで記載された記録がない状況である。面会時に家族の意見を聞くよう務めており、要望等は反映しているが、更に事業所側から積極的に満足度などを伺い、家族が話しやすい環境作りに取り組む事を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所周辺は、民家が少ない立地条件であるが、町内会長を通じて地域のお祭りへの参加など行い、また、散歩の際には必ず住民に挨拶するなどしている。地元小学校の体験学習やボランティアも受け入れており、地域包括支援センターが地元の会館で住民対象に開催した出前講座にも参加するなど、できる範囲で地域との交流に務めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の外部評価の改善課題を受けて理念を全職員で見直し、「地域社会との交流」を新たに付け加え、地域との交流に、より積極的に取り組んでいる。更にホームページへの掲載についても同様に理念の更新を望みたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時やミーティングでは常に理念を確認している。理念から具体的なケアを導き出すように話し合い、共有している。職員の行動が理念に繋がるような気付きが出てきており、質の向上に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周辺は、民家が少ない立地条件であるが、町内会長を通じて地域のお祭りや住民研修会への参加、ボランティアの受け入れや小学校の体験学習など積極的に取り組んでいる。中学校からも体験学習の希望が有り、出来る範囲で地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長より、自己評価の意義が職員に説明され、共通的な項目はホーム長がリーダーと合意の上で個別的な項目はユニットごとに話し合い評価している。昨年度の外部評価の結果も、管理者のリーダーシップのもと全職員で検討して、着手できる項目から直ぐに改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度の開催が定着しつつあり、事業所の運営の他、町内会や地域包括支援センターからの情報提供などがある。しかし、地域関係者が町内会長だけであり、地域情報が限定的なものとなっている。	○	運営推進会議は、地域で多機能なサービスを運営している法人にとっても住民との関りが持てる貴重な機会となっている。運営推進会議のメンバーにさらに地域の様々な組織からの参加者を受け入れ、事業所がより地域密着できるような取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保護課のケースワーカーの訪問はあるが、市や区の担当者との連携が取れているとはいえない。地域包括支援センターの職員を招いて勉強会をするなど、地域包括支援センターとの連携に努めている。	○	地域密着型サービスとして、事業所から区役所などへの積極的な情報提供が望まれる。担当課への事業所便りの送付や、法人機能を生かして研修場所を提供するなどの、創意工夫を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時にはその都度、また、家族の状況に合わせてFAXや手紙により、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。月末には事業所便りや金銭出納の記録も送付し、外来受診の結果は、その都度電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を明示しており、意見箱も設置しているが活用が見られず、苦情対応簿もあるが、実績が無い状況である。家族からは要望がある都度、リーダー会議などに反映して改善に努めている。	○	要望は会議等で即解決する仕組みとなっているが、要望であっても苦状対応簿に起こすことによって事後評価できる仕組みとなるので、取り組みに期待したい。また、家族への満足度調査をするなど、事業所側からの働きかけにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを重視し、職員が働きがいを感じられるよう支援している。労働環境も整備しており離職者も少ない。やむを得ない異動の際には、利用者や家族に十分な説明を行い引継ぎにも配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がステップアップできるよう、外部研修の機会を計画的に確保している。またその成果は内部で伝達研修している。内部でもテーマを決めて研修を実施している。職員が自主的に研修に参加することが多く、学びあう環境が整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体である医療法人の病院、老人保健施設、デイケアとはサービスの向上を目的に交流が多いが、他法人の同業者との交流の機会は少ない。管理者は区の連絡会等に積極的に参加しているが、他法人を知る事で得られる自己サービスの気づきなどについては、全体のものとなっていない。	○	連絡会等への参加はもちろんのこと、処遇内容において実力ある事業所として、他の事業所に研修の機会を提供するなど、より積極的に交流を提案するような取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当たっては必ず体験利用を促し、サービス内容や雰囲気などを納得して頂いた上で開始している。しばらく通所を繰り返してから開始する例もあり、利用者の状況に応じた個別の対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人の希望や喜び、不安や苦しみを細やかに把握するよう努めている。人生の先輩として接し、利用者から教わることも多く、共に過ごし分かち合える関係を築いている。利用者も、できることは自分で行なうという姿勢が自然に身についている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の表出が困難な方については、家族から情報を得たり、カンファレンスの中で総合的に把握し、本人本位となるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは、本人、家族、主治医やデイケアなどの関係者からよく情報を取り、リーダーと担当で原案を作成し、カンファレンスで介護計画を確定している。全職員でカンファレンスやモニタリングを実施し、意見交換をして共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は昨年度外部評価の改善事項を踏まえて、毎月のカンファレンスで見直すなどしている。家族からの要望等も、即座に検討し介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎など対応している。家族の宿泊サービスも実施している。地域包括支援センター職員を招いた勉強会は、家族にも案内している。また、住民からの相談も受け付け支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で同一敷地内にある母体の医療法人病院を主治医とする利用者が多く、受診時には事前にきめ細かな生活の情報を提供するなど連携はスムーズである。他病院が主治医である場合も、家族と情報共有しており、適切な支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から状態に変化が見られた場合には、利用者・家族と重度化した場合等の方針を話し合っている。事業所では、経口摂取できなくなった段階で、医療的な対応を検討するようにしており、家族とも十分話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	母体医療法人ではプライバシーを重んじるよう徹底しており、事業所でも職員に高い意識付けが行われている。利用者の前を通り過ぎる時は丁寧に声をかけるなど、利用者の誇りを尊重する配慮が見受けられる。個人情報同意書に、更に家族欄を設け同意を頂くことが望まれる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、個別的な支援を行っている。特に日中に併設されたデイケアを活用する利用者もおり、個別対応に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとにメニュー係がいて、利用者の好みを聞き、「自分たちのおばあちゃんは何を食べているか」という振り返りから、ごく普通の家庭の料理を意識し作成している。利用者は準備や後片付けなども、力量に応じ出来る範囲で行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日などは決めず、希望に応じ日中に入浴支援している。入浴拒否の利用者には最低週2回は入浴できるよう、声かけしたりタイミングを図り入浴支援している。夜間は、利用者の状態や服薬内容により入浴は実施していない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や力量に合わせて、役割や楽しみごとを作り出し活かしている。来客にお茶を入れたり、花の水遣りをしたり、畑仕事など、職員の見守りの中で行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散歩等支援している。外出拒否の利用者にも、季節や天候など見計らい声かけて誘い出したりしている。川下公園や西友への買い物など車を利用した外出も定期的に行い、家族が同行する花見などの行事も年4回実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していない。外出しそうな様子や気配を察知した時は、行動を共にするなど抑制しない配慮をしている。夜間は19:00には施錠し、安心感も与えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。非常食は隣接の系列病院で確保しているが、最低限度のものを事業所にも配備しておくことが望ましい。運営者は、災害時には法人の広い敷地を避難場所として地域に開放する考えも示している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者の嗜好を把握し、一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を個別に記録している。刻み食など利用者の状態に応じた食事形態も対応している。2ヶ月に一度、系列病院の管理栄養士の助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニング兼リビングを中心にトイレ・浴室・洗面室などの共有空間が隣接し、わかりやすく使いやすい構造である。装飾品や観葉植物などが配置され、採光も明るく清潔感もある。喫煙スペースが空気清浄機とともに事務所の横にあり、安心感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や生活用品が配置され、好みの生活環境を作っている。採光もよく、落ち着いた雰囲気である。		

※  は、重点項目。